

おり、食事会場である有喜閣の入り口には、講師の西嶋豊志様が奉納された、自作の飯縄大権現様の木彫レリーフが飾られております。

また、高尾山報に連載中の、『万葉集』から見る日本の古典』の筆者である獨協大学特任教授の城崎陽子先生が、ご主人様と初詣にいらされ、今年も無事に過ごせますようにと御本



有喜閣に飾られている木彫レリーフ



初詣に来山された城崎先生とご主人



福島正敏様(前列左から三番目)とご家族

尊様へ祈願されました。城崎先生は富士講の一つである「丸藤宮元講」の副講元を務め、富士行者として活躍されており、

毎年三月に高尾山麓で行われます、「高尾山火渡り祭」にも参加されています。

埼玉県本庄市より来山されたのは福島正敏様、本庄市で工務店を営んでおり、毎年お正月になると福島参拝団として、家族総出でお参りに来られます。福島御一家と高尾山との関係は、正敏様の祖父である丑太郎様の時代へと遡ります。

丑太郎様が日中戦争、太平洋戦争と二度に渡

り招集を受けて出征するにあたり、丑太郎様の父親が無事に帰って来られるようにと、武運長久を飯縄大権現様にお祈りされたところ、御加護を授けたことがきっかけであるとお話されています。

昭和十八年に丑太郎

様が高尾山にお礼参りとして訪れて以来、高尾山への信仰を始められました。代替わりされてからも、欠かさずに御家族でお正月に参拝を続けられております。

また来年も皆でお参りに訪れますと話されて下山の途につかれました。

平成三十年 初詣 飯縄様への真摯なる祈り



大山御貫首と記念撮影する高橋先生御家族

平成三十年戊戌の新春、大晦日の雪が舞う曇り空からは一転して快晴となった元旦の高尾山には、全国から大勢の御信徒の皆様が訪れ、賑わいを見せておりました。

新年を迎えた大本堂では、世界平和、国土安穩、東日本大震災早期復興、家内安全、身体健全、身の上安全、心願成就、その他諸願成就を祈り、新春特別開帳大護摩供が厳修されました。

現在高尾山報に連載されている、「法の水茎」の筆者で、栃木県さくら

市普濟寺御住職の高橋秀城先生と御家族が高尾山へ参拝に訪れ、大山御貫首に御挨拶されました。

埼玉県熊谷市からは、熊谷有喜講の皆様が団参に訪れました。

講元の小澤正道様は平成二十六年の正月より講元を務められております。

お話を伺いますと、先代講元である父の忠治様の代より信仰を続けてこられたとのこと。

初めの頃は別の講中の一員として参拝されておりましたが、昭和四十三年に熊谷有喜講を設立されて以来、およそ五十年にわたって、正月と五月と九月の八日に団参する、「正五九詣り」を続けてこられました。

講師の皆様も長年に渡り御本尊様を信仰されて



小澤講元(前列左から四番目)と熊谷有喜講の皆様